

久しぶりの海外でのオブザーバー、しかも海外での世界選手権オブザーバーは初参加でした。ちょっと緊張しましたが、前後合わせて1ヶ月のオーストラリア滞在はとても楽しいものでした。

6/17(木)~20(日)

早朝パース到着。早朝のため空港内は閑散としている。イミグレ・通関ともスムーズに終了し、あっけなくオーストラリア入国。そのままパース市街へは行かずに郊外のノーザムへ列車で向かう。佐賀の大会にいつも役員で来ているグレン家に4日間ほど滞在させてもらう。ノーザムにはパッセンジャーフライトをしている会社があり、2回フライトについていきました。週末はお客さんが多く、2機飛ばすのでグレンもパイロットにかり出されるとのことでした。

6/20(日)~23(水)

お昼頃、梶山さんと松尾さん(千住チーム)がパースからレンタカーでノーザムに到着しました。ここから私も合流し3人でミルデューラまで3泊4日の大陸横断ドライブです。1日目。カルグーリーという街で1泊。ここは金の採掘で有名になった街で、直径およそ3kmというオーストラリア最大の金の露天掘り(スーパーピット)を眺めることができます。西部劇に出てきそうな街並みで、夜ごはんの後には梶山さんお気に入りのビキニのお姉ちゃんがカウンターにいるバーで一杯飲んでからモーターへ帰りました。2日目。東進しているので日の出が早い。パースでは7:00過ぎに明るくなってきましたが、ここでは6:00には明るいです。街と呼べるのはカルグーリーが最後で、これから2日間はずっと大平原をひたすら走ります。夕方からカンガルーが出没しましたが、思っていたほど多くはいませんでした。約100kmおきにサービスステーション(ガソリンスタンドとショップとモーター)があり、きょうはウェスタン・オーストラリアとサウス・オーストラリアのボーダーに近いユークラで1泊しました。ここは、大きめのサービスステーションでモーターも部屋数が多く、ちゃんとしたレストランが併設されていました。

3日目。途中のナラボーSSで鯨が見られると聞いてセスナ遊覧しました。その後LOOK OUT!!のサインのある崖近くからも鯨が見えました。このサインのあるところは結構ダイナミックな景観が楽しめるので、できるだけ立ち寄る

ようにしました。きょうはポートオーガスタという街（やっと街が出てきました！）で1泊。明日はいよいよミルデューラです。

6/23（水）～7/4（日）

午後3時頃ミルデューラ到着。千住さんと合流し、公式チェックインまでそのまま千住チームに居候。芝生の中庭もあるコンドミニウムで、ベッドルームは2つありキッチン・リビングも居心地がとても良いです。

6/24（木）

練習フライト。ちょっと強風気味のなか、千住チーム・遠藤チームはCLP1の北西より離陸。河口くんのクルーが現地ボランティアのみだったので手伝いに行ったが、風が収まらず離陸を断念。その後、南半球用のコンパスの買い出しやヘリウムのピックアップにつきあう。午後は作業を分担。パイロットは競技の準備・セッティング・調整、そのほか充填組や買い出し組に分かれる。スーパーで食材を調達し、自炊する。佐大生の中川シェフによる肉じゃがならぬチキンじゃがと野菜スープの夕食でした。

6/25（金）

いよいよ公式チェックイン。GPS・メジャー・コンパスは、各自持参（メジャーはオフィシャルから借用可）でした。今日から快適だった千住チームの宿からオフィシャル宿に移動。

6/27（日）競技初日。

#1 FIN #2 PDG #3 FON ハンガリーのネーメット・ゾルターンにつく。FINの離陸制限は、日本では通常ターゲットから半径 km～ kmというふうになっていることが多いが、ここでは、離陸は 97 のラインより西からとか、PDGのゴール設定では、離陸地より km～ kmではなく、01 のラインより東で 04 より西などという定め方が多かった。およそ300のゴールリストとデジットが事前に配られていたが、ゴールリストに載っていても無効の交差点がいくつもあり（実線と実線の交差点のみ有効なのだが、破線との交差点もゴールリストに載っていたため）、勘違いしているパイロットもいたようだ。ほとんどの主な交差点はオフィシャルによって事前に中心にポイントが打ってあり、GPS計測は不要でした。#1 FIN では、ターゲットのフィールドに入った気球はほとんどなく、私のついたチームも 600m くらい離れたとなりのフィールドのブッシュの中だったのですが、メジャーチームが計測してくれていました。

6/29（火）3日目

午後 #4 PDG (#5 FON はキャンセル)。1日目・2日目の午後とも競技はキャンセルだったのですが、微妙な強風だったため、5機ほどフェスタ気球が飛んでいました。この日も1日目・2日目と同じような風の状態だったのですが、初日の午前以来キャンセルが続いていたこともあったので、GO となりました。ドイツのピーター・ダンケルにつき、同乗フライトしました。離陸時は強風でしたが、着陸時には穏やかになっていました。広大なフィールドに3000~4000ftの高度からマーカーを投下され、GPSのマークとスケッチをとったが、ランディングが日没1分前で、しかも地主が見つからず500mも道まで移動させたりしていたため、マーカー搜索時には真っ暗になっていました。

7/1(木)5日目

午前 #5 FIN #6 PDG #7 HWZ #8 FON #9 FON

ブリーフィング時は穏やかだったが、インフレの頃にはだんだん風が強くなってきており、結局40分で5タスクという忙しいフライトでした。この日も同乗フライトしました。風向きが悪かったこと、風が速かったこと、タスクがFONであったこと、途中で湖があったことなどで、マーカー投下が後、後になっていました。降ろすとターゲットからさらに離れるためほとんどのマーカーを4000ftから投下。投下時とマーカー接地時にGPSをマークし、投下高度と低空の風向きを考え合わせると、マーカーの位置がほぼ特定できるので、すべてのマーカーを割と早く回収できました。

7/2(金)6日目

午前(最終競技フライト) #10 PDG #11 FIN #12 FON #13 FON 穏やかで、やさしい風だったためほとんどのパイロットがターゲットに寄せてきました。500ポイントのラインが20mだったり、タスクによっては20m離れると200点台だったり、と世界選手権らしい競技フライトでした。この日はオランダのハンク・ブローダースにつきました。今日は追跡しました。風が弱く、またどのタスクも寄せてくるので、先回りして計測もその場で済ませられたので、着陸回収後まっすぐ本部へ戻ることができました。これですべての競技が終了しました。天候に恵まれず、4フライトしかできませんでした。世界選手権の成立には2フライト3タスク以上という条件がありますが、この条件をクリアしている限り、(競技の)エキストラフライトはできないとのことで、午後は50機ほどがCLP1から離陸し、フリーフライトしていました。

TAFE(専門学校)が本部となっていたこと、ボランティアの数も充分だったこ

とで、施設面と人力面では充実していたと思います。とにかくみんないい人たちでした。ただ1つ提供される食事だけが残念でした。朝食は仕方ないとしても、ランチが三角サンドイッチ1個とチップスだけなんて少なすぎです。夕食も出ませんでした。やはりお国柄が出るようで、前回のフランスの時は充分だったようです。

日本チームの結果は、5位 藤田さん 9位 水上さん 12位 千住さん 19位 河口くん 24位 遠藤さん でした。

日本チームもかなり健闘し、全体としてはかなりいい成績を残せたことで、次回の茂木での世界選手権に大いに期待したいです。